

## 教育実習体験記 小学校実習

### ～子どもたちとともにつくる授業をしてみたい～

子ども発達学部学校教育専修3年

村田 咲奈(むらた さきな) 愛知県・蒲郡東高校出身

教育実習において、子どもたち一人ひとりと向き合い、良かったところはしっかりと褒めることの大切さを学びました。こう感じたのは、子どもたちの自己肯定感の低さからでした。子どもたちに自分の良いところを見つけてもらおうと、良かったことを見つける際は具体的な言葉でしっかりと伝えていくことを心がけていました。また授業の最後に子どもたちが提出するふり返りのノートにも朱書きを入れていくようにしました。

こういった自分ができることを重ねていったことによって子どもたちの自信を育むことができ、さらに研究授業では考えることが苦手な子どもたちが鉛筆を走らせ、発言をする姿が見られたと担当の先生から褒めてもらいました(子どもたちだけでなく私自身も褒められるとやる気が出ます)。この経験によって教師の側からメッセージを発信していくことが子どもたちとの信頼関係をつくるきっかけになりました。その小さな積み重ねが大きな力になると思いました。



### わたしたちの先生を紹介します

心理臨床学科障害児心理専修3年

福田 未来(ふくた みく) 富山県・富山南高校出身

#### 江村和彦先生

江村先生は、授業では保育や学校教育の造形や図画工作などを教える、陶芸家でもあります。江村ゼミ3年生は保育専修13人、障害児心理専修2人の計15人で活動しています。学科がバラバラな私たちですがとっても仲良しでゼミ中もおしゃべりが絶えません。男4人、女11人と男女比は偏っていますが、みんな分け隔てなく自分の意見を言ったり活動に参加しています。



ゼミは「ふれる、つくる、あそぶを子どもと共有できる実践者をめざす」というテーマのもと、実際に外へ出て、子どもたちと一緒に活動することがメインになっています。

その主な活動とは、保育園、幼稚園、小学校へ出かけて子どもたちと造形遊びをすることです。特に「ねんど遊び」が中心です。「ねんど」というと油ねんどや紙ねんどを想像されますが、江村ゼミの「ねんど」は土ねんどの粉を使います。ねんど遊びは、2種類の土ねんどの粉末の感覚を楽しむところから始まります。子どもたちは、粉の不思議な感触を「ふわふわ、きゅつきゅ」と言葉に出して教えてくれます。そこに水を混ぜていきながらねんど、そして泥へと変わっていきます。子どもたちも私たちも体中ねんどまみれになります。普段出来ない遊びなので体に塗りつけたり、スケートのように滑って遊びつくします。活動の終わりを知らせても、「もっと遊びたい！」といって名残惜しそうでした。この活動は準備や後片付けは大変ですが、子どもたちの楽しそうな様子を見ると、十分楽しんでくれたのだなと思い参加してよかったです。

今年度の夏は、15回のねんど遊びの活動を行いました。私自身心理臨床学科ということもあり、子どもたちと触れ合う機会が中々なかったのですが、活動に参加することで子どもたちの様々な姿や先生方の関わり方を間近に見ることができ、今までにない経験を積むことが出来ました。この経験を活かしながら、卒業論文や卒

しかし、授業で自分のめざしていたことはできず、ただ私が黒板に書いて話しているだけの授業になってしまいました。子どもたちの実態に合わせ、子どもたちが主体的に活動できる授業づくりの難しさを感じ、今後教師を目指す私自身の課題になりました。加えて子どもたちが主役であり、ともにつくる姿勢を忘れないようにしていきたいとも思いました。

この実習を通じて教師になりたいという気持ちがさらに強くなりました。また自分が配属された学級だけでなく、他学年も参観したこと、子どもの発達段階や、教師の指導の仕方も学ぶことができました。4週間という短い時間の中で、いっしょに学級をつくっていった子どもたちと学びつつ得たことは、自分にとって大きな成長となると確信しました。それぐらい私にとって教育実習は有意義なものとなりました。小学校の教育実習で学んだことを来年度の中学校実習でも生かしていきたいと思います。



昨年の夏のオープンキャンパスで活躍する江村ゼミの学生たち

### この号の主な内容

新たなる旅立ち・就職・進学への道 2017 ①

障害児心理専修、保育専修

新たなる旅立ち・就職・進学への道 2017 ②

心理臨床専修、学校教育専修

サークル紹介① 児童文化部あかとんぼ

わたしたちの授業科目を紹介します

肢体不自由児指導法、音楽専門研究 I

サークル紹介② あすなろキャンプの会

教育実習体験記 小学校実習

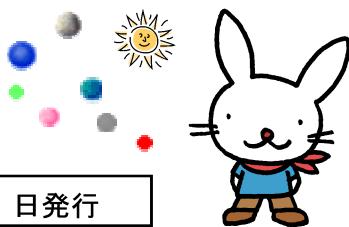
わたしたちの先生を紹介します

早川すみ江先生 & 江村和彦先生

## We ❤ こたつ

— 日本福祉大学 子ども発達学部ニュースレター —

第17号 2017年3月1日発行



### 新たなる旅立ち・就職・進学への道 2017 ①

#### ～日本福祉大学での学びを活かして～

心理臨床学科障害児心理専修4年

加藤 瞳(かとう むつみ) 愛知県・西尾高校出身

ゼミにおいては早川先生は様々な面でとても優しく、いつも助けられています。討論や議論の中、無学のため言葉にすることが出来なくとも、それを答める事なく、優しく助けてくださったりします。ゼミの最初の頃は引っ込み思案な子たちが多く、なかなか意見や言葉も少ない状態でした。それでも早川先生はどんな意見も否定することなく、こういった考え方ができるといいね、といったように考えを良い方向に昇華させられるように導いてくれました。その結果、現在私達のゼミでは、皆が得意とする分野に違いが有っても、プレーンストーミングのように互いの意見を尊重で尊重できるものとして活かし合う話し合いが出来ています。

心理臨床学科心理臨床専修3年

太田 雄貴(おおた ゆうき) 愛知県・名古屋国際高校出身

#### 早川すみ江先生

ゼミにおいては早川先生は様々な面でとても優しく、いつも助けられています。討論や議論の中、無学のため言葉にすることが出来なくとも、それを答める事なく、優しく助けてくださったりします。ゼミの最初の頃は引っ込み思案な子たちが多く、なかなか意見や言葉も少ない状態でした。それでも早川先生はどんな意見も否定することなく、こういった考え方ができるといいね、といったように考えを良い方向に昇華させられるように導いてくれました。その結果、現在私達のゼミでは、皆が得意とする分野に違いが有っても、プレーンストーミングのように互いの意見を尊重で尊重できるものとして活かし合う話し合いが出来ています。

ゼミや学科を選ぶとき様々なことで悩まれると思います。大学で心理学を専攻したものの思っていたものと違うとか、もっと人間の奥底が知りたかったとか、学びを深めることによって色々な考えが生まれてくると思います。早川先生は優しいだけでなく、無意識や深層心理などの分野について、とても造詣が深い方です。もしかしたらあなた自身の考え方の根本に少し近づく事ができるかもしれません。そういう分野に興味がなくとも、自分はこういうことがやりたいんだ！ということを熱く表現できれば、どんな分野でも早川先生は好奇心に満ち溢れた様子で疑問をぶつけたり、話をつなげてくださったりして、とても学びに対する意欲を大切にしてください。そんな早川先生と共にさまざまな学びを深め、人と人の繋がりによって思いや考え方を探る、そんな精神的な冒険を手助けしてくださると思います。



#### ～福祉の視点からみた保育を作っていく～

子ども発達学科保育専修4年

下澤 朱里(しもざわ あかり) 富山県・桜井高校出身

「福祉×子ども」という子ども発達学部の理念に興味を持つて福祉大に入学しましたが、当時はあまりその意味を理解できませんでした。しかし、4年間この大学で学ぶなかで、発達段階に子どもを当てはめて見ることが保育者の専門性ではない気がつきました。その子を取り巻く環境や心に秘めている思いに気づき、日々の生活の中での一瞬の子どもの姿に保育者自身も心を動かしながら、様々な角度から子どもを理解しようとしていることが、福祉の視点から見た保育なのではないだろうかと考えるようになりました。



そして、私自身が実際に保育者として働くと考えた時、私が生まれ育った町へ帰り、そこで生活する子どもたちに寄り添いたいと思い、地元の公務員試験を受けることに決めました。それから、教養試験に向け同じ目標を持つ友だちと勉強し、面接に向けて改めて自分の町について調べてみました。すると、自然の豊かさや人の温かさなど、地元の良さを再発見ができ、ここで働きたいという気持ちが増し、実習と勉強の両立も乗り越えることができました。

4月からは地元の保育所で働くことになります。子ども一人ひとりとの出会いを大切にし、その時その瞬間にしかできない保育を子どもと共に楽しみながら作っていきたいです。



## 新たなる旅立ち・就職・進学への道 2017 ②

### ～採用試験でも仲間の存在が大切でした～

子ども発達学科学校教育専修4年

高野 美里(たかの みさと) 岐阜県・加茂高校出身

教員採用試験では、岐阜県の特別支援学校教員を受験しました。試験を受けるにあたって、私はさまざまな勉強をし、試験に挑みました。試験勉強をする中で一番大切だと感じたことは、仲間の存在です。

教員採用試験では、面接があり、その形態も様々です。私は個人面接と集団討論、集団面接があつたため、試験に向けてたくさんの仲間と面接練習をしました。4年間、同じ教育課程を受けていたとはいえ、なかなか関わってこなかった人とも練習する機会がありました。仲間の新しい姿をたくさん知ることができ、お互いを高めあいながら面接練習に取り組むことができました。練習をする中で、良かったところと改善すべきところを指摘しあい、とても濃い経験となりました。

試験が近づくにつれ、不安や焦りが出てきます。そんな時も、仲間の存在はとても大きいです。同じ経験をしているからこそ分かりえることが多く、仲間の存在が不安や焦りの解消になり、さらには自分のモチベーションを上げることにもつながりました。

試験を受ける前にやっておいた方が良いこととして、子どもたちと関わる経験をたくさんすることをお勧めします。筆記試験は勉強しただけ点数は取ることができます。しかし、面接や場面指導などは、今まで子どもたちと関わってきた経験から話すことが大切です。私自身、あまり子どもたちと関わるボランティア活動をしてこなかつたせいで、面接などで話すための引き出しがとても少なく、話す内容を考えることにとても苦労しました。たくさんの子どもたちと関わったことは自分の話の引き出しを増やすだけでなく、自信もつながるので、是非率先して関わる経験をしてほしいです。

### サークル紹介① 児童文化部あかんぼ

子ども発達学科保育専修4年

南川 真実生(みなみがわ まさき) 三重県・四日市西高校出身

児童文化部あかんぼは、知多地域の子どもを対象にしたボランティア活動を行う公認サークルです。保育園、幼稚園はもちろん地域の児童館、小学校から図書まで、活動の場を広くとっています。

あかんぼには大別して二つのグループがあり、それぞれが自分の興味や希望にもとづき、どちらかに所属しています。

サークル員の半数以上を占める規模の「あそびグループ」は、大人数の子どもを対象とした集団遊びが専門です。人形劇の前の手遊びや、集団遊びに使用する備品の製作を行っており、今年もたくさんのお声かけを頂きました。お子さんや地域の持つ個性をひしひしと感じながら活動しています。

サークル員の3分の1ほどの人数で構成される「公演グループ」は、人形劇を専門として活動しています。図書館から依頼を受け、指定された絵本を元に人形劇を準備したり、地域の児童館や保育園で行われる「なかよし会」や「クリスマス会」に華を添えることが主な活動です。人形や背景、小道具などの舞台装置や脚本を創作し、創意工夫に満ちた表現を楽しんでいます(舞台装置が搬入できれば小さな会議室などでも開演致しますので、お気軽にお問い合わせください)。

どちらのグループも子ども発達学部の学生が大半ですが、社会福祉学部はもちろん、キャンパスをまたいで参加する経済学部のサークル員も居ます。新入生の皆様には毎春開催される説明

### ～大学院へ進学して、さらに学びを深めます～

心理臨床学科心理臨床専修4年

塙谷 茉弓(しおや まゆみ) 静岡県・伊豆中央高校出身

春から臨床心理士資格の取得を目指して、日本福祉大学大学院社会福祉学研究科心理臨床専攻に進学します。

高校生の時、「心理学って何だろう。」という疑問と興味だけで、心理臨床学科に進学しました。正直、そんな私が今、大学院進学を決めて、臨床心理士の道を選ぶまでになるとは誰も予想できませんでした。

臨床心理士を目指そうと思ったのは、大学1年生のときに受けた臨床心理学の講義で臨床心理士について知った事と先生がお話ししてくださいました。心療法の事例、特にプレイセラピーの事例を聞いたことがきっかけでした。

遊びを通して臨床心理士がどのようにクライエントの行動を見て、どう関わるべきかといった心理療法の基本から実際にクライエントと関わる生の体験の重要性など、講義で先生がご自身の臨床での体験を交えながらお話をしてくださいました。その関わりの中でクライエントに起こる変化の様子を聞くうちに、そのお話しにどんどん引き込まれていき、もっと心理臨床のことを知りたい、自分も関わってみたいと思うようになりました。

その気持ちは大学3年生になっても変わらず、臨床系のゼミに所属しました。ゼミでは、模擬カウンセリング体験やディスカッションを通して自己理解、他者理解、カウンセリングや心理療法について考える機会を得ることが出来ました。先生、ゼミの皆には多くの意見や支援を頂き、自分の興味のある研究テーマにも出会い、心理臨床への気持ちはより高まってきました。

決して勉強が得意だったわけではありません。しかし、興味や疑問をもって講義や演習を受けるうちに知ること、考えることの楽しさを感じ、一步一歩目標に近づくことが出来たと感じています。この様な環境を与えてくれた大学、そして先生方、切磋琢磨し合った仲間に出会えたことに感謝しています。

臨床心理士として社会に貢献できる人材になることが今までのご恩返しになると信じて、これからも一つ一つのことを大切にして前に進んでいきます。



会に、どうぞ気軽に参加してほしいと思っています。

春には各サークルがとんでもない熱量をもって勧誘活動に勤します。毎年、そのような鬱蒼とした勧誘ビラの舞う、まるで熱帯雨林かのような熱気を帯びた校内を抜けてこられた「新春キャンパスの開拓者」たる新入生の皆様を、心からもてなす準備をしてお待ちしています。

(児童文化部あかんぼ公式Twitter→@jd\_akatombow / ご依頼・お問い合わせ→aka10mbow@gmail.com)

## わたしたちの授業科目を紹介します

### 肢体不自由児指導法

心理臨床学科障害児心理専修3年

古谷 拓真(ふるや たくま) 長野県・飯山北高校出身

現在特別支援学校教諭を目指し勉強しており、たくさんの障害について学ぶ講義を受講しています。中でも3年次に行う「肢体不自由児指導法」は私自身にとって大きな影響を与えるものになりました。今回はその講義内容を紹介します。

肢体不自由児指導法では特別支援学校の肢体不自由児を対象とした模擬授業をグループで行います。教師役のみではなく生徒役も演じるのがこの模擬授業の特徴です。各グループには、特別支援学校特有の教育活動である「自立活動」の内容の6つの区分の中から1つが割り当てられます。私たちのグループは、「健康的の保持」という区分が割り当てられ、中度の知的障害を伴う肢体不自由の中学生を想定しての模擬授業を行いました。まず生徒の実態から考え、グループのメンバーと担当の先生との話し合いを通してイメージを深めています。架空の人物を作るのではなく苦労しますが、実際に考える事で障害とはどのようなものなのか、どのような支援が必要なのかを改めて確認することができます。さらに今回は知的障害を伴った生徒を想定したため、授業の内容のみではなく、どのように伝えるのかという点にも留意しながら授業を作成しました。情報を視覚的に発信したり、手に麻痺がある生徒のために鉛筆ホルダーを自作したり様々な工夫を凝らしました。このような工夫は教育実習や実際に教壇に立つ時などに必要となることで、とても良い経験となります。

この講義を通して障害児教育とは何かを改めて確認することができたとともに、仲間と協力したり、相談したりといった、実際に教師として働く際に必要な力を得ることができたと感じます。この経験を来年度の教育実習はもちろん、将来、特別支援学校の先生としての仕事に活かしていきたいと思います。



### サークル紹介② あすなろキャンプの会

子ども発達学科保育専修4年

加藤 壮(かとう そう) 愛知県・常滑高校出身

大学公認サークル「あすなろキャンプの会」の方針は、キャンプを作り上げる活動を通して、子どもたちの成長を目指すことです。主な活動としては、小学三年生から高校三年生の子どもたちと共に、キャンプやレクリエーションを行っています。5~6月は子どもたちとレクリエーションを行い、8月には岐阜の中津川の廃校になった校舎を借りて、キャンプを行っています。キャンプ場の近くには川や山などがあり、たくさんの自然に囲まれています。川遊びをしたり、山に探検しに行くなど、自然を満喫して楽しんだり、グランドではサッカーや野球、ドッヂボールなど様々な遊びも出来ます。山では、普段見ることの出来ない昆虫や動物に遭遇することが出来るため、子どもたちの間では人気スポットとなっています。

キャンプでは遊びだけでなく、食事を作ったりなど、身の回りのことを自分自身で行います。親元を離れ、「あすなろキャンプの会」メンバーの大学生や友達と一緒に過ごすため、普段の生活では出来ない体験ができます。そのため、参加している子どもたちの社会性や自立性が養われていきます。多くの子どもは毎年参加しており、キャンプをとても楽しみにしています。

この「あすなろキャンプの会」は、サークル員全員が仲が良いため、私たち大学生だけでキャンプをしたり、ボーリングなどをすることもあります。友達が出来るか不安な新入生も、「あすなろキャンプの会」に入ることで、たくさんの優しい友達を作ったり、先輩と仲良くなったりすることができます。またサークル員の前で、子どもと遊ぶためのレクリエーションのプレゼンテーションを行うため、人前で話

### 音楽専門研究Ⅰ

子ども発達学科教育専修2年

立木 美紀(たちき みき) 三重県・津東高校出身

音楽専門研究Ⅰという授業は卒業するための選択必修科目で、現在、約30人で授業を受けています。この授業では小学校教諭に必要な知識、技量の基礎を学びます。この授業には、幼稚園から高校までピアノを習っていた人から、まったくピアノを習ったことがなくプラスバンドなどの音楽経験が一切ない人までいます。教師になつたら教えなければならない学習指導要領の共通事項を学んだり、5、6人ほどの小グループに分け、ピアノの演習を行ったりします。さらに、歌唱、器楽、創作、鑑賞、この四つを教え基礎を学んでいます。

まず、はじめの授業の時には、一人一人楽器を持ち、自由奔放に鳴らしたり、規則的に鳴らしたり、音楽の特徴や良さをみんなで楽しみながら学びました。次に、毎回四つほどリズム打ちを授業中にしています。5、6人の小グループで行うので、わからなかったり、つまずいたりする時は、気軽に聞くことができます。グループで分かれて行うので、グループ内で先生の説明のわからなかった所を確認することもできます。6、7分時間をとり、グループごとに練習をし、その場でそれぞれ発表するなど、全員が責任をもって、積極的に授業に参加できるようになっています。

まったく音楽経験のない私でも先生がゼロから説明してくださるので、しっかりと理解できます。また、授業ではグループで活動することが多く、わからないところをわからないままにしないという工夫もあります。

また、毎回はじめに前の授業の確認テストを行うので、音楽の知識が確実に身についていきます。ピアノの実技では、まず初めての授業の時に小学校1~6年の指導要領の楽譜が配布され、自主的に練習できるような配慮があります。また、配られるプリントは「うみ」や「かたつむり」など初心者が弾くには適したものなので、気楽に挑戦することができます。音楽づくりで利用する音楽理論も学びます。学んだことを再確認したり、新しいことを学んだりできます。

私は大学に入ってからピアノを始めたのですが、初心者向けの楽譜であればしっかり練習をすることで弾けるようになりました。この授業を受けて、ピアノを弾く機会が増え、指導してくださる先生ができる、すばらしい環境の中でピアノを練習でき、できなかつた曲が徐々にできるようになります本当に楽しいです。「ピアノを弾けるようになりたい」という思いでこの授業を受けていると、その思いが徐々に実現しているなど感じています。音楽の知識や技術を学び、しっかりと教えることのできる小学校教諭をいつしょにめざしませんか。



力もつくようになります。大学4年間を有意義に過ごすことができるサークルです。新入生のみなさんには、是非入部してほしいと思います。